

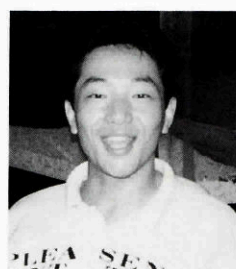


わたしのまちづくり

シリーズ⑩

板垣久資 さん

(市)



泉 文男 さん

(浅田)

排他から融和へ

今、三隅町は変化しています。バイパスの完成間近、町立香月美術館の建設、又、萩・三隅自動車道路やインターチェンジの建設計画、将来はその道路の延長も考えられ、一見発展している様に見えます。

先日、あるグループのフォーラムに参加させてもらったが、町の将来の構想には町民の夢や希望、意見が根本に有ると言う事を改めて感じました。私達は三隅を良くしようという心を持ち続け、「道の凸凹が直るといいな。」というような身近な事から、とてつもなく大きな夢の様な話でも機会が有る毎に発表して行くべきです。役場の職員達は、あらゆる方法で多くの意見や夢を集めて、その道の専門家と相談しながら立派な絵を描いてくれるでしょう。色付けや飾り付けは私達町民の役割です。ちなみに私の夢は、杉山川を溪流釣りができる様に整備し、地区の人に組合を作って管理してもらえば生計の実績もでき、むづかしいとされていた河川組合の復活も可能な気がします。又、三隅川には九州方面から多くの人釣りに来られます。積極的に受け入れ態勢を整備してもっと多くの人に来て喜んでもらえばいいと思います。河川改修も計画されている事ですし・・・

「まちづくり」への 環境づくり...

近年「まちづくり」とか「まちおこし」というような言葉・考え方・行動が、三隅町を含め、各地で盛んにわきおこっているが、なにを目標にの「まちづくり」なのか？ 人口の増加・定住か？ 経済的な発展か？ 制度的な充実か？ 人の意識の充足か？ どれも大切なことであり、大きなテーマだと思う。

一人ではなかなか取り組めないが、一人ひとりが意識をもたないと、本当の「まちづくり」は進んでいかないと思う。

歴史の流れをかえるきっかけは、若い力・考え・行動からだと思う。

私たち若者は、先輩方の教えを受けながら、自分たちの時代が始まっていることを認識し、なにかのかたちで行動に移していかなければならないと思う。

危機感のようなものをいだきながら、具体的になにをしていいのかわからないし、行動力もない自分であるが、わかるまで待つのではなく、より多くの仲間をみつけ、議論し、いいと思うことは行動に移していくように努力しようと思っている。

パワーのある若者の集団とそれをうまく誘導するまわりの環境ができれば、そこから一つの「まちづくり」が始まっていくような気がする。

新刊図書紹介

トレンセン図書室より

(成人向)

「周防100山百景」

中島篤巳・マツノ書店

「わたしの献立日記」

沢村貞子・榊新潮社

「真夜中は別の顔上・下」

シドニー・シェルドン

「天馬龍行・紀 泰隆」

（榊アカデミー出版）

「花とおじさん」

現代美人女子学生論

三浦太郎・PHP研究所

「恋する伊勢物語」

俵 万智・筑摩書房

「あきらめない人生」

／寂聴茶話

瀬戸内寂聴・小学館

(子ども向)

「かんきょう絵本 全10巻」

（榊ポプラ社）

「技術・家庭科シリーズ 全6巻」

（榊ポプラ社）

「ポプラ社・ゲーム大百科 全6巻」

（榊ポプラ社）

「教科書がよくわかる からだシリーズ 全5巻」

（榊ポプラ社）

「小学なぜなぜふしぎ サイエンス 全10巻」

（榊学習研究社）

（榊学習研究社）

（榊学習研究社）

（榊学習研究社）

（榊学習研究社）